

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和6年8月20日（火） 午後 1時30分から 午後 2時30分まで
開催場所	本庄市役所 6階大会議室
出席者	委員－清水委員・矢代委員※・種村委員・風間委員・五十嵐委員※・田端委員・江原委員・高野委員※・田中委員※・鈴木委員・鳥羽委員・関口委員・新井委員・竹内委員 ※意見書の提出あり 事務局－本庄市 橋本企画財政部長、柳企画課長、 平野政策係長、矢本主任 美里町 萩原総合政策課長 神川町 春山総合政策課長 上里町 吉村総合政策課長 児玉郡市広域市町村圏組合 櫻井総務課長 埼玉県北部地域振興センター本庄事務所 小山所長
欠席者	村上委員・神宮委員
議題 (次第)	(1) 本庄地域定住自立圏共生ビジョン取組評価（令和2～6年度）について (2) 次期本庄地域定住自立圏共生ビジョン（素案）について
配付資料	令和6年度第1回本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会次第 令和6年度本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿 本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱 資料1 本庄地域定住自立圏共生ビジョン取組評価表総括（R2～R6） 資料2 次期本庄地域定住自立圏共生ビジョン（素案）
その他特記事項	
主管課	本庄市企画財政部企画課

会 議 の 経 過	
発 言 者	発言内容・決定事項等
事務局 (柳課長)	皆様には、お忙しいところ、令和6年度第1回本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。 本日、司会を務めさせていただきます、本庄市企画課の柳と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 会議に先立ちまして、ご報告と資料確認等をさせていただきます。まず、本日欠席の委員のご報告をさせていただきます。 本庄市児玉郡歯科医師会 矢代享一様、埼玉ひびきの農業協同組合 五十嵐雅樹様、神川町観光協会 村上賢一様、朝日自動車株式会社本庄営業所 高野寿臣様、公益財団法人本庄早稲田国際リサーチパーク 田中千尋様、美里町区長会 関口英世様以上です。 なお、事前に意見書をいただいている委員におかれましては、意見書の提出をもって出席数へ計上いたします。そのため、本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第6条第2項により、本会議は成立しておりますことを報告いたします。 次に、この懇談会の公開についてですが、懇談会、審議会等の会議は、原則公開することとなっておりますのでご了承いただきたいと思います。なお、本日の傍聴者はおりませんので、ご報告いたします。 続きまして、配布資料等の確認をさせていただきます。
(会議資料の確認)	
事務局 (柳課長)	それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。開会にあたりまして、鳥羽会長よりご挨拶をいただきたいと思います。
(会長挨拶)	
事務局 (柳課長)	ありがとうございました。 続きまして、議題に入らせていただきます。ここからの会議の進行につきましては、設置要綱第6条第1項により会長が議長となつて行うこととなっておりますので、鳥羽会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
鳥羽会長	それではここから議長を務めさせていただきます。 議題について、事務局より説明をお願いします。
(本庄地域定住自立圏共生ビジョン取組評価(令和2～6年度)について、次期本庄地域定住自立圏共生ビジョン(素案)について説明)	
鳥羽会長	事務局の説明を受け、委員の皆様から一言ずつご意見をお伺いしたいと思います。少し分かりづらい内容もあるかと思いますが、竹

	内さん、いかがでしょうか。
竹内委員	令和２年度から６年度の総括提案評価のところで、基本目標達成率が２０％、具体的取組事業別ＫＰＩ達成率も２２％と驚くような数値です。達成できなかった要因はコロナが原因であったと説明がありましたが、コロナに隠れてしまっている部分もあるのではないかと思います。その点なにか分析されているのでしょうか。その一方で、具体的取組事業別取組評価結果では、効果があると評価されている事業が８６％となっており、こちらもまた驚きです。この辺の深堀はきちんとしていただいて、何が具体的に駄目だったのか、何が効果があったのかを評価し、次の新しい計画に向けていただけるとよいのではないかと思います。
鳥羽会長	ありがとうございます。今の件について何か事務局の方から何かございますか。
事務局 (矢本主任)	ほとんどの事業が目標を達成できていないにも関わらず、効果があったと評価している事業が多いことに対しては疑問があるかと思います。コロナ以外の原因があったのではないかとのご意見でしたが、やはりコロナの影響が大きく、目標値もコロナを想定していない値を設定していたため、実績には届かなかったと分析しています。 一方で、効果があったと評価をした理由としては、何もやらない場合と比較したときに、一定の効果はあったと考えたためです。例えば、救急医療ですと、何もやっていない場合に救急車は出動してくれないので、その人を助けられないということがあるかと思います。一定の方には効果があったのではないかと考えられることから評価をしており、今後は目標達成するためには、こういった事業を展開していったらよいか、新しい取り組みも含めて考えているところです。
竹内委員	これまで達成できなかったところをまず達成しようという方向で考えていくのか、それにさらに上乘せしていくのか、方向性としてはどのように考えているのでしょうか。
事務局 (矢本主任)	既存の取り組みについてはまずは達成できなかった目標を達成していこうという考えで、次期計画を作成しています。５年間の実績を踏まえて新しい目標値を設定し、５年後には達成できるようにしていきたいと考えています。
鳥羽会長	よろしいでしょうか。それでは新井さんお願いします。
新井委員	特にないのですが、交通の便が悪い地域であると感じているため、ビジョンでも取り上げていただいて改善していただきたいと思っています。

事務局 (矢本主任)	ご意見ありがとうございます。この地域は車を利用される方が多く、車に乗れない方は公共交通を利用されていると思います。この定住自立圏の取組は、各分野に作業部会を設置して事業を推進しています。圏域の道路ネットワークを検討する作業部会では、移動を円滑にするために必要な道路整備を行っています。 また、公共交通を検討する作業部会では、それぞれ行っている事業は個別のものもあるかもしれませんが、バス停などの接続点を近くに置くなどして、より移動が円滑にできるように検討しています。
鳥羽会長	よろしいでしょうか。それでは鈴木さんお願いします。
鈴木委員	人材育成の分野ではないのですが、ふれあい教室のKPIについて、令和5年の実績が73.5%で、学校復帰率とすると全国的に見ても現状で非常に高いと聞いておりましたが、5年後の目標値が85%ということで、あんまり背伸びしすぎなければいいなということをちょっと心配しております。
事務局 (矢本主任)	ふれあい教室の学校復帰率は全国的に見ても非常に高いようで、最近4年間では約8割の児童生徒さんが学校に復帰した実績があるとのこと。今後は現状より多くの児童生徒さんが復帰できたらいいなという思いを込めて掲げた目標値になっております。とはいえ、一番大切なのはご本人の意向や意思だと思うので、今後もしめ細やかな支援ができればよいと思います。
鳥羽会長	ありがとうございます。江原さんいかがでしょうか。
江原委員	私もふれあい教室の実績値が気になりました。こんなに高いものなのですかね。実際にはどうなのでしょう。
事務局 (矢本主任)	最近4年間の学校復帰率が約8割であるという実績は確かにありまして、目標値は実績を下回るのはどうなのかという考えもあり、高めに設定されています。
鈴木委員	担当ではないのですが、私が以前ヒアリングしたとき、不登校のうち、ふれあい教室に来る前の段階の児童生徒さんもいるようです。この学校復帰率の数値はふれあい教室に来られて通えるようになって、学校に復帰された児童生徒さんの数と聞いています。 おそらく江原委員がおっしゃるとおり、ここに含まれないお子さんもいらっしゃると思います。ご家庭でひきこもっている児童生徒の数を含めると適切な数字ではないかと思います。
江原委員	理解しました。ありがとうございます。
鳥羽会長	ありがとうございます。風間さんお願いします。
風間委員	6年度までの実績についてはこういった結果であったということで、次年度からのことを考える中で福祉の分野で心配なのは福祉サ

	ービスを受けてない人のことです。困っている方が地域に出られないことで悪循環が始まっていくようなケースが多いと思います。 小中学生は義務教育なのである程度把握されているのですが、それから高校に行くときに線ができてしまうのですよね。そこで高校に行けばまだいいのですが、行かないとなると、ご本人もご家族の方も苦労されると思います。中学校から先が途切れてしまうケースはどうにかしないといけないと思います。 それと多少繋がるのですが、入所の地域移行ということで、これもまた課題があります。地域移行するとなったときに入所している障害をお持ちの利用者さんは入所以外の施設の福祉サービスを使えないのです。例えば入所されているとヘルパーさんと呼んでご自宅でヘルパーさんを使っているとか、そういったものが使えず、入所して何も利用できるサービスがないのですよね。関東の中でもいくつかの市町村で行っている独自の取組として、特別に支給している事例があったりします。 あとは今、生活介護ということで施設入所昼と夜で分けているのですが、例えば、一生懸命支援をさせていただいて昼間一般就労に近い形で従事すると、昼間の部分で施設側が報酬をもらうことができません。これに関しても自治体によって昼間も出しますといったように、市町村でできることを市町村の中で決めていいので、そういったところが柔軟になるといいなと思います。そうすると地域移行に関しても、進められることがあるのかなと思います。 埼玉県システムでは入所しているとほぼ100点となり、優先順位が高くなり、入口は作られるけれども出口はないというようになっていきます。それを1市3町で解決できるとよいと思います。 ただ、埼玉県は他の都道府県と異なり、随時入所施設を作っている珍しい県だと思います。結果的に栃木や茨城から人が流れているだけなので、施設も地域のために作っていくような取り組みがあれば、もっと障害を持っている利用者さんが生活しやすくなるのではないかと思います。 産業の分野は関係ないので素人で申し訳ないのですが、観光資源の開発というところにも期待したいです。観光資源の開発は人口に直結すると思っています。ある人と話したときに、国道16号より中でないと将来潰れると言われました。私たちは県北なので、国道16号より外側に位置し、人口減少が進んでいくのではないかと。その一方で、群馬県玉村町は合併せずに頑張っています。 玉村で面白いと思うのは、道の駅に高速から無料で降りてまた戻れるので、かなり集客があるそうです。なので、上里がどうなっ
--	--

	ているかは分かりませんが、上里インターチェンジ周辺も人を惹きつけるものがあるといいなと思います。私も子どもに映えスポットに連れていけとよく言われ、そういった場所には人が集まっていますし、住民にとっても私たちの地域だと自信を持てるのではないかと思います。 少し長くなりましたが、一緒に何かできることがあればよろしくお願ひしたいと思います。
事務局 (矢本主任)	大きく分けて三つ、中学校を卒業した後の子どもたちに対する支援、入所施設からの地域移行に関すること、観光資源の開発についてご意見をいただきました。 最初の2点については、大変貴重な意見ご意見をいただきましたので、福祉分野の作業部会とともに検討していきたいと思います。 観光については、人口減少対策には、観光資源を活用して人を呼び込むという考えが大切だと思いますので、今もっている資源の活用や新たな資源の発掘について、観光分野の作業部会と協力して考えていきたいと思います。
鳥羽会長	よろしいでしょうか。それでは種村さんお願いします。
種村委員	先ほど不登校のお話があったのですがけれども、身体障害者福祉会としては逆に障害を持っているお子さんたちが学校へ行きたくても学校へ行けないという状況が現在あることが問題であると思っています。基本的にいわゆるバリアフリー対応の学校が設置されておらず、車椅子の方が通いづらいという状況がございます。従って、設備の整っている特別支援学校しか選択肢がないので、これを解消できる方法はないのかなと思っています。 一番嫌っているのは、障害を持っているからといって一つのグループに全て放り込んで効率のよい扱い、処理をすることです。これは、人権にとってもライフスタイルに対しても大きな影響を与えます。 例えば、同窓会をするときに療育園といいまして、今でいう特別支援学校と同じようなところに通った場合に、地元の同窓会には出られなくなってしまいます。地元でともに学びともに暮らせるまちをつくろうといっても障害者が排除されるかたちになってしまいます。これを解決できるといいというのが1点です。 また、交通体系の問題なのですが、本庄市、美里町、神川町、上里町との連携がうまくいっていない、バスでいうと乗り継ぎが悪いということをよく言われます。 各市町村がもつバスの接点の場所がもっと明確になるとよいと思います。例えば、本庄早稲田駅から美里町、神川町、上里町へ行く

	バスが発着するような方法がとれば、まずはそこへ行けばいいと分かります。本庄早稲田駅ではなくても、神保原駅でも児玉駅でもよいと思います。接点がうまくできると便利になるだろうなという印象があります。
事務局 (矢本主任)	ご意見ありがとうございます。まず1点目の障害をお持ちの方が学校に行きたくても行けない状況にあるという点については、どんなお子さんであっても通えるような学校になったらよいと個人的には思っているところなので、それぞれの市町の取組にはなってしまうかもしれませんが、施設の改修と合わせてバリアフリー対応になっている校舎であったり、誰もが通えるような学校作りを考えていけばいいなというふうに率直に思いました。 もう1点の交通については、おっしゃるとおり「ここに行けばどこにでも行ける」というバスターミナルのようなものがあるといいと思いますので、公共交通の作業部会にもいただいたご意見をお伝えして、住民の方がより移動しやすいような交通について考えていきたいと思っています。
鳥羽会長	清水さんいかがでしょうか。
清水委員	救急医療に関しての感想ですが、関係機関で連携して提供しているところですが、平日木曜日と夜間の救急が難しい状況にあります。そのような中、例えば、救急でなければならないのか利用者が判断できるようにすることも大切だと思います。相談をして看護師さんが今日ではなくても明日でも大丈夫ではないかとアドバイスしてくれた場合は翌日病院に行くなど、そういった啓蒙をしていくことも救急車の適正利用に繋がると思います。 2次救急に関しては市外の病院とも連携しており、医師会としても定期的に顔を合わせて連携を深めているところです。昔は近くの病院に行くのがよいという時代でしたが、今は埼玉群馬関係なく、北部医療圏の医療隊として医療を提供していくことが大切であると考えています。 また、個人的には発達障害については行政と連携してスムーズにできていると思います。
事務局 (矢本主任)	ご意見ありがとうございます。救急医療に関しては、必要な方が必要なときに使えるようにするために適正利用率を上げることが重要であると思っておりますので、いただいたご意見のとおり救急医療の必要性を住民の皆さまにご理解いただく啓発活動を事業として展開することも大切であると思いました。県をまたぐ連携の話についても引き続き連携していけたらよいと思います。 発達障害児支援についても、お子さんがより良い暮らしができる

	ように引き続き事業に取り組みたいです。
鳥羽会長	田端さんいかがでしょうか。
田端委員	コロナ禍で人の動きが大きく変わってしまったので、事業の達成率は仕方ないと思います。 産業振興の分野について発言させていただきますと、自閉症・情緒障害を持ったこどもたちと仕事をしたことがあるのですが、土をいじっていると素直になってくるので、できればそういう子たちがいたら迎えて協力したいと思います。 桑梓という児童養護施設の子たちと一緒に食べたり作業したりしたことがあるのですが、土と親しむととても素直になるので、我々農家が地域で人の役に立ち、協力できるのかなと思います。 それから、これからは地域計画といいまして、国の音頭取りでこれから10年間、児玉郡市の農業をどんな計画で行っていくのか模索し始めているところです。ビジョン構想は、1市3町が連携していかに末永く幸せに生きるかということだと思うので、農業の計画の中にもこういう問題を取り入れていくとよいと思います。若い農家も市町を超えて色々やっています。これからの地域計画を進めるにあたって中心となる人物が誰か把握して交流を図っていければ、地域の発展になり、地域産業振興、観光資源のもとにもなりますので、人材育成のためにも地域間の連携を深めていければと思います。
事務局 (矢本主任)	ご意見ありがとうございます。横の連携といいですか、分野をまたぐ連携ということですね。改定後の計画では、福祉や教育の分野それぞれの分野で障害をお持ちのお子さんの支援や不登校の児童生徒さんを支援する事業を載せておりますが、農業にそういった子たちが携わることで、心の健康にも繋がるというご意見をいただき、一つの分野だけではなくて色々な分野で連携し合って、より良い圏域に繋げられたらよいと私も思いましたので、作業部会同士の交流等を行い、分野間の連携事業なども展開できるとよいと思いました。ありがとうございます。
鳥羽会長	それでは私も委員ということでありますので一言意見を述べさせていただきます。この圏域は自然豊かで、非常に魅力のある地域であると思います。このビジョンという計画がある一方で、行政区が分かれており、当然首長もそれぞれ別にいらっしゃいますが、それは外して考えて、一つの圏域として考えていく必要があると考えています。 また、コロナがあって事業がストップした経緯がありますけれども、止まったままではなくて、これを一つの糧として次のステップ

	に向けて何かやっていけるとよいと思います。 そして、令和7年度の改定の中で一つ目玉となるようなものがあるとよいと思います。埼玉県が県庁を建て替えすると聞いています。国の出先機関は難しいかもしれませんが、県の出先機関が圏域に来るというような夢のような事業があってもよいのではないかと思います。 先日本庄市で公共施設の見直し説明会がございました。人口減少に伴い、適正な規模に学校を含む公共施設を統廃合していく必要があるとのことです。そうした中で、国の取り決めが厳しくなかなか難しいとは聞いていますが、人口を増やすための取組として、市街化調整区域の取り扱いを検討してもよいのではないかという意見もありました。このような考え方も、ビジョンの中に入れていけたらありがたいと思いました。
事務局 (矢本主任)	まちづくりについても各市町単独で考えるのではなく、圏域一体で考えるのが望ましいとは思いますが、調整区域についても、住みたいところに住めるとよいと思う一方で、人が住めるようにするためには農地を減らさなければならないという課題もありますし、道路や下水道など都市基盤を整備する必要もあります。慎重に考えなければならないことであるとは思いますが、ご意見として承ります。
鳥羽会長	米が不足しているという問題もありますからね。事務局の技量が試される令和7年度以降の事業になると思いますので、前向きにチャレンジしていただきたいと思います。また、圏域の皆さんにこのビジョンの内容を発表していただければと思います。 もう一点質問なのですが、今回上里町と神川町においてデマンド交通を開始する理由について参考に教えていただけないでしょうか。
事務局 (吉村課長)	上里町の吉村と申します。上里町では、令和7年度からデマンド交通とコミュニティバスの併設を予定しております。その理由といたしましては、今現在運行しているコミュニティバスの中央ルートと南北ルートのうち、南北ルートの乗車率が少ないので、より町民の方が利用しやすいようにデマンドという形態で、停留所を増やして運行することとなりました。
鳥羽会長	巡回バスは残すのでしょうか。
事務局 (吉村課長)	中央ルートを残します。主要ポイントを残しながら、中央ルートのコミュニティバスと、まちを南北に分けて南と北のデマンドルートということで、2方式で運行する予定です。
事務局	神川町の春山と申します。来年の1月より、実証実験という形で

(春山課長)	デマンド交通を開始したいと考えています。理由といたしましては、現在神川町には朝日バスさんと神川タクシーさんしか公共交通の手段としてはない状況であり、また高齢化が進んでおりまして、朝日バスさんを利用しづらい場所にお住まいの方もいらっしゃると思います。そういった方々が免許返納等で移動手段がなくなってきており、今後必ず必要となる事業であることから、実証実験という形で事業を開始することに至りました。
鳥羽会長	ありがとうございます。それでは、事務局の方から何か補足等ありましたらお願いします。
事務局 (矢本主任)	前回の懇談会時にいただいた、介護認定審査等の意見につきましては、現在各作業部会で検討中のため、本日お示ししたビジョンの素案には含まれておりませんが、検討結果については次回の懇談会においてご報告させていただきます。次回の懇談会は年明け2月上旬を予定しております。以上です。
鳥羽会長	それでは、以上で議事を終了させていただき、議長の座を降ろさせていただきます。議事進行へのご協力と熱心なご意見に感謝申し上げます。
柳課長	貴重なご意見大変ありがとうございました。また、議長を務めていただきました鳥羽会長にお礼を申し上げます。 以上をもちまして、令和6年度第1回本庄地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を閉会いたします。どうもありがとうございました。